

下水道圧送管路調査機器 CSカメラ「スネークくん」

「下水道展'札幌」が2023年8月1日から4日間、札幌ドームで開催されました。多くのお客様にご来場いただきありがとうございます。

今回展示した下水道圧送管路調査機器CSカメラ「スネークくん」は、硫酸腐食箇所を効率的に調査・診断することができます。

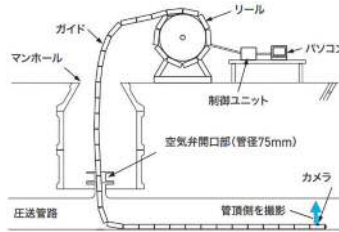
点検調査が難しい下水道圧送管路を、机上スクリーニングで圧送管路の硫酸腐食の危険箇所を効率的に抽出して

特定し、特定した箇所を対象に硫酸腐食の有無を管内カメラ（CSカメラスネークくん）で調査することで、劣化度を診断・評価することが可能です。

機器の先端部のカメラで管頂側を広範囲に撮影し、管内面の状況を映像で確認します。劣化度を3段階にランク分けし、必要な対策や今後の点検方法を検討することができます。

ご興味ございましたら、お気軽に各営業担当までお問い合わせください。

劣化度	Aランク(重度)	Bランク(中度)	異常なし
管内面状況	鉄部腐食あり	モルタルライニング表面が部分的に変色、腐食発生	モルタルライニング表面が全面均一
(例)			
対応例	速やかに修繕、改善計画を策定し、早急に修繕または改築を実施	速やかに修繕、改善計画を策定し、5年以内に修繕または改築を実施	5年に1回以上の適切な頻度で点検を実施



< 管内調査イメージ図 >

※CSカメラ スネークくんは株式会社クボタの登録商標です。(CS: Corrosion Survey) 第3回「インフラメンテナンス大賞」国土交通大臣賞技術開発部門 受賞

< 劣化度評価 >

2023年10月1日からインボイス制度(適格請求書等保存方式)が開始されます。

インボイス制度とは、売手が買手に対して、正確な適用税率や消費税額等を伝えるものです。具体的には、現行の「区分記載請求書」に「登録番号」、「適用税率」及び「消費税額等」の記載が追加された書類やデータをいいます。(国税庁HP参照)

弊社も発行事業者として登録しており、登録番号は(T1120001037978)になります。「法人番号公表サイト」でも検索可能です。

パイプシステム通信編集部

2023年10月18日~20日 2023東京水道展

(一般社団法人 日本水道工業団体連合会主催)

「2023東京水道展」が2023年10月18日から3日間、東京ビッグサイト(西展示棟3,4ホール)で開催されます。

展示会ではクボタグループの取り組みとして「水道の未来」をテーマに水道事業全体の課題解決に向けた新しいコンセプトについて発信する予定です。ぜひ弊社ブースNo.43にお立ち寄りください。

また、同日開催の水道研究発表会では、論文発表を行っております。

残留塩素管理システムの フィールドテストを実施

三重県 鳥羽市水道課様

三重県鳥羽市は、有人離島が4島あります。この4島共に高齢化と人口減が著しく、島内の配水管は必要口径に対し過大傾向になり、管内水の停滞による水質維持に課題を抱えています。各島での水質は、地元住民に委託しながら毎日検査を行っている状況です。

今回、有人離島のうち一番小さく、本土に一番近い坂手島の管末部でフィールドテストを実施いたしました。機器設置にあたっては、メーターボックス等を使った埋め込み型ではなく、露出型のボックスを使用し、通信機器も搭載し状態監視も行いました。

今回、約2か月間実施し、残留塩素濃度の設定通りに電磁弁の開閉が行われたこと、日中と夜間での残塩濃度の比較、庁内において状態監視が出来ることが確認できました。

鳥羽市水道課様からは、離島や山間部の遠隔地等、直ぐに駆けつけづらい地域において残留塩素管理システムが欠かせないものになる事を期待しているとの評価をいただいております。



DXR II 工法をご採用

三重県 津市上下水道事業局様

三重県津市上下水道事業局様でご採用いただいたDXR II 工法の工事概要は、内径1000mmの泥土圧式シールドL=430m(15R×2カ所・30R×1カ所、上り下り5%勾配有り)へのPN管口径500の持込み配管工事です。

DXR II 工法の特徴は、①急曲線・長距離であっても1スパンでの施工が可能 ②内径1000mmのセグメント内に特殊台車を用いてPN管呼び径500を持込み接合することができる ③PN管を接合後、その都度、特殊テストバンドによる水圧テストを実施し水密性を確認することができる ことが挙げられます。

本工事は、①発進直後に5%下り勾配でR=15mを施工 ②河川下を通過した後5%上り勾配でR=15m・30mを施工 ③中間立坑までPN管で接合し中間立坑からはNS形口径500の開削での施工 といった厳しい条件下での工事となりましたが順調に進められました。

本工事のような厳しい制約のある現場での施工を可能とするDXR II 工法は、これから多くの現場での採用が期待されています。

